

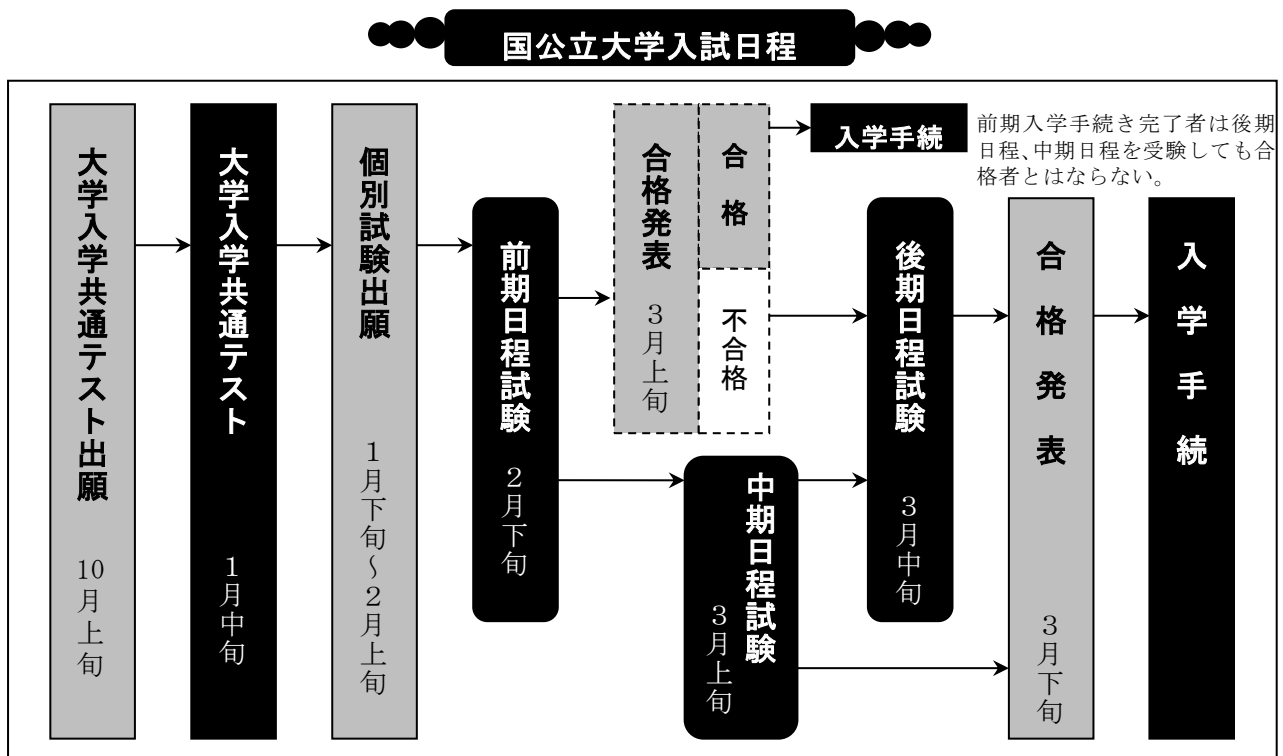
第2章 一般選抜

※令和3年度入試より、大学・短期大学・一部の専門学校では、入試の名称が変わりました。「一般入試」→「一般選抜」、「AO入試」→「総合選抜」、「推薦入試」→「学校推薦型選抜」となりました。本章では、すべて新しい名称で統一して表記させていただきます。

1 大学

(1) 国公立大入試

国公立大学を受験する場合、まず全国一斉に実施される大学入学共通テスト（旧大学入試センター試験）を受けます。そして自己採点を行い、その結果を見て志望校に出願し、各大学が個別に実施する2次試験を受験します。



① 大学入学共通テストについて

共通テストは、国公立大学の入学者選抜の一部として共通で実施される1次試験です。国公立大学を一般選抜で受験する場合は、必ず受験しなくてはなりません。2026年度実施の共通テストは、2027年1月16・17日の2日間で実施されます。共通テストには、7教科21科目が用意されています。受験生にどの教科・科目を課すのか、また、2次試験の配点比率をどうするのかについては、すべて各大学の裁量に任されています。受験生は自分が志望しようとする大学・学部が指定する教科・科目を選んで受験することになります。国公立大学では、国語、数学、外国語、地理歴史・公民、理科が受験科目となる場合が一般的です。

共通テストはマーク方式で行われ、英語にはリスニングテストがあります。また、出題は教科書レベルの基本的な問題です。昨年度までの共通テスト（旧センター試験）の受験生の平均点は55～65パーセントの得点となることが多く、75パーセント得点すれば、過半数の国公立大学のボーダーラインをクリアできます。

共通テストの教科・科目・配点（2026年度）

教科	出題科目	試験時間/配点	教科	出題科目	試験時間/配点
国語	「国語」	90分/200点	理科	「物理基礎／化学基礎／ 生物基礎／地学基礎」 「物理」「化学」 「生物」「地学」	〈1科目選択〉 60分/100点 〈2科目選択〉 130分/200点
地理 歴史	「地理総合、地理探求」 「歴史総合、日本史探求」 「歴史総合、世界史探究」 「公共、倫理」 「公共、政治・経済」 「地理総合／歴史総合／ 公共」	〈1科目選択〉 60分/100点 〈2科目選択〉 130分/200点	外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	「英語」 【リーディング】 80分/100点 【リスニング】 60分/100点 「ドイツ語」「フランス語」「中国語」 「韓国語」 【筆記】 80分/200点
公民			情報	「情報Ⅰ」	60分/100点
数学①	「数学Ⅰ、数学A」 「数学Ⅰ」	〈1科目選択〉 70分/100点			
数学②	「数学Ⅱ、数学B、 数学C」	〈1科目選択〉 70分/100点			

② 個別試験（2次試験）について

● 実施の方法

国公立大学の2次試験は、一部の例外を除き、原則的に分離分割方式で実施されます。分離分割方式とは、前期日程試験と後期日程試験の2回に分けて入試を実施する方法です。受験生にとってのメリットは、同じ大学の同じ学部を前期・後期の2回にわたって受験するチャンスがあることです。しかし、この方式では、前期試験に合格し入学手続きをした者は、後期試験を受験しても合格できなくなります。また、この方式では、前期日程に募集人数が多く、2次試験科目も多いというのが一般的です。なお、後期日程を廃止する大学が年々増加しているので、注意してください。一部の公立大学では中期日程も実施しています。

● 入試科目

文系の学部では「国・数・英」または「国・地公・英」の3教科型か「国・英」の2教科型が多く、理系の学部では「数・理・英」の3教科型か「数・理」の2教科型が多いようです。教員養成系の学部では、「国・数」、「国・英」、「国・理」の2教科、または専門科目・実技の1教科型が多くなっています。また地歴・公民はB科目を指定する大学が多く、数学は文系の学部では数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B、理系の学部では数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ・数Cを指定する大学が多数をしめています。

(2) 私立大学入試

私立大学の試験は、11月上旬から学校推薦型選抜が本格的に始まり、3月下旬に終了します。私立大学の一般選抜は、各大学が実施する学力試験のみによって決定されます。試験科目は、文系の学部では英語、国語、選択科目、理系の学部では数学、理科、英語の3教科で行われるのが一般的ですが、最近では複線入試などのユニークな入試制度を取り入れる私立大学が増加しています。そ

のため、受験生は志望校の選択と同時に、受験方法の選定にも注意を払う必要があります。次に、そのユニークな入試制度について説明します。

① 共通テスト利用入試（旧センター試験利用入試）

共通テストに参加する私立大学は年々増加し、8割以上の私立4年制大学で共通テスト利用入試（旧センター試験利用入試）が行われていました。私立大学の入試に共通テストを利用することには、地元で受験できる、国公立大学との併願がしやすい、共通テストを利用している複数の私立大学との併願ができる、同じ私立大学の一般選抜と併願が可能といったメリットがありました。なお、共通テスト利用入試では、個別に2次試験を行う大学は少なく、共通テストの成績がそのまま可否を決定していました。

② 得意科目入試

大学で採点時に特定科目の配点を高くして重視するものです。傾斜配点方式とも呼ばれます。大学が科目を指定するもの、受験生が試験前に配点タイプを自己申告するもの、大学が採点時に他教科より高得点だった教科の点数を2倍にするもの、特定教科の得点が全受験生の中で極めて優秀であれば総合得点にかかわらず合格とするもの、などがあります。

③ 小論文入試

試験科目・方式を選べるアラカルト型入試の増加とともに、一般選抜でも論述型試験が目立ってきました。小論文が課されるパターンには、学科試験は課さず小論文がメインとなるもの、1教科あるいは複数教科と小論文があるもの、小論文が選択教科の一つになっているもの、1次試験合格者に2次試験として課すもの、などがあります。

④ 地方試験

大学で行う試験のほかに、別に会場を設けて試験を実施する学校があります。この場合、試験日が違えば、本学と地方と両方の試験場で受験することができます。この制度をうまく利用すれば、時間的にも経済的にも負担が軽減でき、精神的にも体力的にも余裕をもって試験に臨むことができます。

⑤ 試験日自由選択制

同一学部・学科の試験日を2日以上設定しているもので、設定された試験日の中から都合のよい日を選択して受験できる制度です。ほとんどの場合、試験日ごとの併願を認めているので、同じ科目で複数回受験することもでき、それだけ受験のチャンスも広がります。

⑥ 特技・資格優遇制度

英語検定や簿記検定などの有資格者や、課外活動で優れた成績を収めた者を特別に考慮する制度です。資格を取得したり、課外活動で成果をあげたりしておく、学校推薦型・一般選抜を問わず有利になります。

2 短期大学

短期大学の一般選抜では、選考方法として学科試験を実施するのが一般的です。入試の科目数については学校や学科によってさまざまですが、2科目以下が主流となっています。短期大学の受験科目は、国語なら古文・漢文を除くや英語なら英語Ⅰ・Ⅱ、数学なら数Ⅰのみというように範囲が限定されている場合がほとんどです。また、入試の方法もバラエティーに富んでいますので、自分に

とって有利な受験校はどこかをよく研究してみることも大切です。短大の学校推薦型選抜は、学科試験がない場合も多いのですが、最初から学校推薦型選抜だけを目指すのではなく、一般選抜を頭に入れた受験勉強をすることが大切です。

最近の傾向としては、実用的な資格を取得することができる学校に人気が集まり、看護系の学科等で受験倍率が上がっています。出願に際しては、短大を卒業後にどのような仕事に就きたいのか、そのためにはどんな技術資格が必要で、それにはどの学校のどの学科を選ぶとよいのかをよく考えましょう。

3 専門学校

専門学校の入試は、分野・学科によってかなり違います。学科試験を課すところもあれば、受付順で入学を許可する学校もあります。選考方法は総合型選抜、学校推薦型選抜と一般選抜があります。

① 工業・農業系

書類選考の学校が半分以上を占めています。学科試験を行うのは情報処理・機械・建築・土木・自動車整備の学科が多く、科目は国語、数学、理科、外国語（英語Ⅰ）などで、作文や面接を課す学校もあります。学校推薦型選抜は、書類選考と面接・作文です。数学だけでなく英語・国語も準備しておく必要があります。

② 医療系

ほとんどの学校で学科試験・面接・健康診断・作文または小論文を行っています。大学入試と同様の本格的な学科試験が実施されます。学科は国語、外国語（英Ⅰ、Ⅱ）、数学（数Ⅰ、数Ⅱ）の3教科がほとんどで、理科（生物）を受験科目にしている学校もあります。作文・小論文は志望理由や職業意識、人間性を見るために重視しています。

③ 栄養・調理系

学力試験を実施する学校が増えてきました。栄養士になるには理科・数学の基礎学力が必要です。そのため、国語・数学・理科・英語の基礎学力をみる総合的な問題を出すところが多くなっています。

④ 理容・美容系

面接が重視されます。特に身だしなみを整え清潔感を見せるように注意しましょう。中には一般常識程度の学力試験を実施する学校もあります。

⑤ ビジネス・語学系

外国語学科関係は英語の成績を重視しています。一般入試は、英語の筆記・リスニングが主流ですが、学校によっては現代文や一般常識を課すところもあります。

ビジネス実務系は、書類選考方式をとっているところが圧倒的に多く、高校時代の学習内容と出席状況などの生活態度に重点を置いて選考しています。書類と面接、あるいはそれに作文というスタイルが増えてきたのも同様の理由からです。学力試験を実施している学校の試験科目は国語・英語・社会などで、基礎学力の判定が主流です。内容は教科書レベルですが、時事問題が多いので、新聞等を読む習慣を付けるとうよいでしょう。

⑥ 教育・福祉系

一般選抜は書類選考と面接、作文、あるいは学科試験と面接のどちらかです。学科試験は国語、社会、

一般常識ですが、養護関係は理科系の科目がプラスされます。体力測定、マツト運動あるいはリズム感のテストを行う学校もあります。また、福祉系では、ボランティア活動などの体験を重視する傾向もあります。作文や小論文は、専攻分野に関連したものがほとんどです。関心を持った事柄について調べておく必要があるでしょう。

⑦ ファッション系

書類選考のみか、書類選考と面接を併用しているところがほとんどです。作文を課している学校もありますが、高校卒業程度の学力と本人の意欲、目的意識などが重視されます。

⑧ 芸術・スポーツ系

デザイン・芸術学科関係では、表現力・創造力・感性などが必要とされていることから、学科試験よりも適性を重視しています。デザイン系ではデッサン・スケッチ・図法・平面構成などの実技を実施している学校が大半です。

● 入試の種類

学校推薦型選抜	一般選抜
公募制推薦、自己推薦、指定校推薦などがある。書類選考、面接による選考が一般的で、それらに加えて小論文、実技等を課す場合がある。	書類選考、面接が一般的だが、なかには学科試験を課す学校もある。
総合型選抜	特待生入試
学校推薦型選抜、一般選抜よりも時間かけて審査するため、入試のスタート時期が早めに設定されている場合が多い。エントリー開始を夏休み前に設定する学校もある。書類審査のほか、面接や作文により人物をトータルに評価する。	試験の結果や高校での学業成績に応じてランクが設けられ、それにより免除金額が異なる場合もある。学校独自の制度のため、書類審査、面接、筆記試験、適性検査など選考基準は各校で異なる。

● 認可校か無認可校か（無認可の学校では利用できない制度があります）

専門学校は設置にあたり、都道府県知事の認可を受けています。さらに厚生労働省、経済産業省、国土交通省等の認可・指定を受けている専門学校があります。一方、職業教育を行うところでも、認可を受けていない教育機関も多くあります。これらを総称して「無認可校」といいます。認可を受けていないということだけで、教育機関としてのよしあしは一概にいえません。しかし、認可校で受けられる特典が「無認可校」では受けられないので注意が必要です。

認可校と無認可校のおもな相違点		認可校	無認可校
	公的奨学金・教育ローン	利用できる	利用できない
	資格取得	試験免許や実務経験短縮など特典あり	特典なし
	修業年限	1年以上	規定なし
	授業時間数	年間800時間以上 (夜間の学科は450時間以上)	規定なし
	学歴	要件を満たした修了者に専門士・高度専門士の称号が与えられる	高卒扱い (学歴にならない)
	大学編入・大学院入学	要件を満たすことができる	できない
	通学定期・学割	適用される	適用されない

※無認可校は、「専門学校」「専修学校」と名付けることはできない。

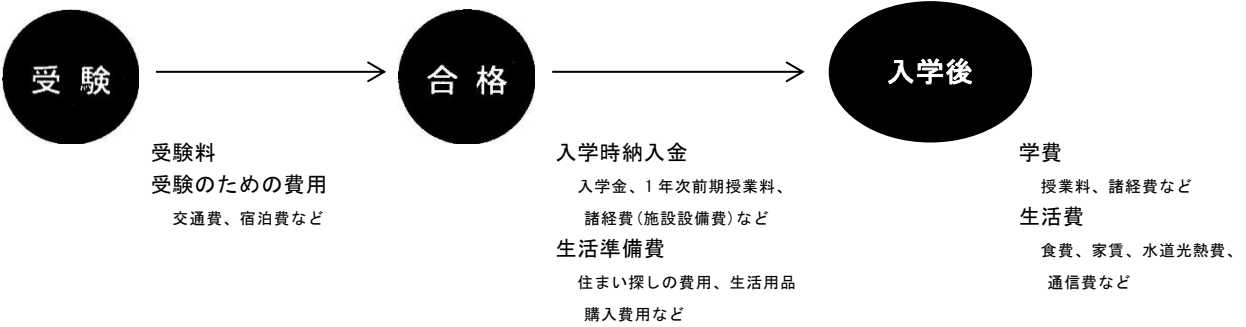
※認可校は万が一、学校が倒産せざるを得ない事態になった場合、公的な機関により転校など救済への働きかけが行われるが、無認可校にはそうした働きかけは行われない。

4 進学にかかる費用と時期

受験から入学までには、受験費用や初年度納入金、また入学準備のための費用が必要となります。

受験時には、受験料や交通費、場合によっては宿泊費がかかり、合格発表後には入学手続きのための納入金がかかります。

進学をめざす場合には、どの時期にどれだけの金額が必要となるかを把握し、計画的に資金の準備をしておくことが大切です。



●受験料の目安(学校・試験別)

* 共通テスト(3教科以上受験)	18,000 円
* 共通テスト(2教科以下受験)	12,000 円
国公立大学2次試験	17,000 円程度
一般選抜(私立)	35,000 円程度
* 共通テスト利用入試	15,000 円～ 20,000 円程度

●受験から私立大学入学までの費用(住居別)

	自宅外通学	自宅通学
受験費用	254,000 円	253,300 円
家賃	66,700 円	—
敷金・礼金	235,300 円	—
生活用品費	320,700 円	—
初年度納入金	1,357,080 円	1,357,080 円
合 計	2,233,780 円	1,610,380 円

2021年度「私立大学新入生の家計負担調査」(東京私大教連)より

●学費について

1年目にかかる学費は、主に「入学金」「授業料」「諸経費」の3つで、「初年度納入金」といわれます。なお、諸経費とは、施設設備費や実験実習費などのことです。

これらを支払う時期と内訳ですが、入学時に「入学金+1年次の前期授業料+諸経費」を、そして1年次の秋に「1年次の後期授業料+諸経費」を支払うのが一般的です。各学校の募集要項・ホームページなどを参考に、志望校の初年度納入金を確認しておきましょう。

●初年度納入金平均額(昼間部)

	入学料・授業料 施設設備費	実験実習費 その他
国公立大学(標準)	817,800 円	—
私立大学(文系)	1,188,991 円	83,445 円
私立大学(理系)	1,566,262 円	123,762 円
私立大学(医歯系)	4,890,539 円	1,600,525 円
私立大学(その他)	1,459,612 円	172,536 円
私立短大(平均)	1,127,586 円	146,264 円
私立専門学校(平均)	979,013 円	202,9109 円

令和3年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額
(文部科学省)。